

チェック柄に対する日・韓学生の官能評価
—同色系の濃淡による2色配色と3色配色—
○朴 美愛 成瀬信子 (文化女子大)

目的 テキスタイルデザインの中でも多くのバリエーションをもつチェック柄に対し、規則性を置いたチェック柄を作り、日・韓学生の視覚評価を行い、国によるチェック柄に対するイメージの違いを求め、比較検討した。

方法 チェック柄の試料は、青、赤、黄系の各同色相の濃色・淡色を組み合わせた2色配色と濃色・中間色・淡色を組み合わせた3色配色を用い、SD法による官能検査を行った。20評価項目は日・韓各自国語で行い、被検者は被服関係の専攻女子大生各20人とした。色の測定値と官能量との対応を行い、数理統計処理を通し比較検討した。

結果 1. 同一デザインに対し、青、赤、黄系の官能評価の傾向を調べるために、分散分析を行った結果、日・韓ともに、デザインが単純である2色配色が3色配色より色相の影響を受けているが、3色配色に対し韓国は日本より色相の分散が見られ、デザインより色相の影響を受けて評価していると言える。 2. 色の測定値から算出した相対明度および相対彩度と各評価項目の官能量を対応した結果、青系の場合、日本が韓国よりこれらと相関が見られる評価項目が多いことが示された。 3. 2色配色と3色配色の各評価項目ごとの平均値の差の検定の結果、日本は韓国より、青、赤系で、相対明度および相対彩度に差が大きい試料に対し、2色配色と3色配色に評価の差が多く見られる。 4. 3色相ごとに、各試料に対し、20項目を変数とし、20人の素データを用い、主成分分析を行った結果、日本は青、黄系の配色に、韓国は赤系の配色にトーン (相対明度および相対彩度) に影響されながら配色を見分けていることが明らかになった。